



Squamish Lil'wat Cultural Centre



北米で進む木造公共建築

北米の建築物における木材利用は、壁や床などの内装材に木を使うという取り組みが中心である。木造建築の多くは混構造であり、低層をRC、高層をパネル構法で建てる建築事例が多く見られるが、日本で多く見られる木材のビーム（構造材）にする構造設計事例はほとんど見られなかった。しかし、近年は経済性・持続可能性としての価値が評価され、鉄筋コンクリート造の代替としての木質構造の普及に力を入れており、過去に事例のない種類の構造設計も手がけられている。

11月18日に建築会館で開かれた「日本建築学会シンポジウム」（主催 日本建築学会・木質バイオマス資源の有効利用活用特別研究委員会 後援 カナダ大使館、社日本ツーバイフォー建築協会）では、イクイリブリューム・コンサルティング（Equilibrium Consulting Inc.）主宰のエリック・カーシュ氏（Eric Karsh）による「カナダの公共建築物における木材利用」というテーマで発表された。エリック・カーシュ氏は、木質構造に特化した設計と施工技術の専門家である。

【詳細は新住宅ジャーナル3月号】

【詳細は新住宅ジャーナル12月号】